

30. 心臓病とはどんな病気ですか？

心臓病にもいろいろあります。

- 1) 虚血性心疾患。生活習慣病の一つで、狭心症や心筋梗塞などがあります。欧米諸国の死亡原因のトップを占めている病気です。日本でも近年増加し、三大死亡原因の中に入ります。心臓突然死の原因となっています。
- 2) 不整脈。脈の乱れが認められる病気で、心房細動、期外収縮、脚ブロック、発作性頻脈、心室細動などがあります。心室細動では死の危険性がありますので、その治療に自動体外除細動器（AED）が使われることがあります。
- 3) 先天性心臓病。生まれつき心臓に問題がある場合で、心房中隔欠損症、肺動脈狭窄症などがあります。
- 4) 心臓弁膜の病気。僧帽弁膜症、大動脈弁閉鎖不全症などがあります。
- 5) 心筋の病気。
- 6) 心膜の病気。心内膜炎、心外膜炎など。
- 7) その他、心臓神経症など。

これらの心臓病のうち、生活習慣病として多くの人が発病する虚血性心疾患について、どんな病気か見ていきましょう。

虚血性心疾患とは、心臓に血液が行かなくなる病気です。心臓は全身に血液を循環させるために、休むことなく動いているポンプです。この心臓というポンプを動かすためには、動力が必要です。動力となる材料は、血液から常に供給されています。血液から供給された炭素を含んだ糖質や脂質を酸素で燃焼させて動力を獲得しています。血液の流れがストップしたり、あるいは血液の流れが少なくなり、チョロチョロとしか流れない状態では、心臓を動かすために必要な動力が作り出せなくなってしまいます。心臓がこのような状態になった時に虚血性心疾患と呼んでいます。

心臓に血液を供給する通路となる動脈を冠動脈（あるいは冠状動脈）と言います。全身に血液を送り出す循環ポンプは、心臓の壁を構成している心筋の伸び縮みによって働いています。心筋も心筋細胞の集まりで、多数の心筋細胞が協調して仕事をしています。それぞれの心筋細胞は皆、生きた細胞で、酸素呼吸をしています。血液の流れが悪くなると酸欠状態となり、その状態が続くと酸欠状態に陥った心筋細胞は死んでしまいます。それを心筋梗塞と呼んでいます。

このように虚血性心疾患とは、血液の供給が滞って起こる病気で、血液を供給する通路に問題があって発病してくることから、心臓に専用の通路である冠動脈の名前を取って、冠動脈疾患とも呼ばれています。